



## ビオトープで生き物を観察

エコパーク推進室は5月8日、綾町役場北側のビオトープ「綾トープはつけんじま」で、綾小学校4年生とともに水辺の生き物の観察を行いました。児童たちは植物、昆虫、アカハライモリなどを観察する班に分かれ、水辺の生き物たちと触れ合いました。

「ビオトープ」は生き物の生息空間の範囲を示す造語で、山全体や川の流域といった広い範囲から

小さな水たまりに至るまで、ひとつの生態系が存在する場所を指します。「綾トープはつけんじま」には小さな小川が流れしており、力エルやトンボといった水辺の環境を利用する生き物たちが多く集まつてくることから、「水辺のビオトープ」とも呼ぶことができるかもしれません。

今回の観察では、くつを脱いで水に入り生き物を捕まえようとする児童や、トンボの羽化をじっと見守ったり木道に生えたキノコを丁寧に記録したりする児童など、興味のある生き物に素直に向き合っている姿が見られました。

中には生き物を捕まえることに夢中になっている子もあり、運の悪い生き物は何度も捕まつていいようでした。あの日一番たいへんだったのは引率の先生でもエコパークセンター職員でもなく、キャッチアンドリリースを繰り返されたアカハライモリだったかも

しません…。

「綾トープはつけんじま」は町民に開かれた公共区域のひとつです。いつでも自由に立ち入り、遊んでかまいませんが、守ってほしいルールが3つあります。

- ①必要以上に生き物を捕まえない
- ②外から生き物を持ち込まない
- ③ゴミを捨てたり、環境を荒らしたりしない

ビオトープは「生き物たちの大好きな家」のようなものです。ビオトープで遊ぶときは、生き物たちの家におじゃまさせてもらつていの家におじゃまさせてもらつていれる、という感覚を忘れないでください。

トープで遊ぶときは、生き物たちの家におじゃまさせてもらつていの家におじゃまさせてもらつていれる、という感覚を忘れないでください。

綾ユネスコエコパークセンターでは町内に生息するさまざまな水辺の生き物たちを展示しています。入館は無料ですので、ぜひご来館ください。休館は毎週火曜日です。観察や自然観察に関する申し込みや、センターの利用に関する問い合わせにも応じています。

■綾ユネスコエコパークセンター  
☎ 77-3482

## column

### キセキレイ

山間地の川や渓流周辺で見ることのできる美しい鳥。冬季には下流域にも移動してくるため、場所を変えて一年中観察することができます。

石や岩に留まって水際のエサを探し求めて動き、長い尾羽を上下に動かす習性があるため「石たたき」などの別名も持っています。胸から腹にかけて黄色く、日本では江戸時代から黄色を表す「黄鶴鶴」という名が付けられています。「黄」は胸・腹の色、「鶴」は脊筋がきれいな鳥、「鶴」は清らかな鳥の意。

一方、海外では背面の灰色に着目した「灰鶴鶴」という名前が付けられています。国によってネーミングセンスが異なることが分かるおもしろい事例です。

